

公民館だより **11**月号

『文化・芸術の祭典』を盛大に開催！

生涯学習フェスティバル

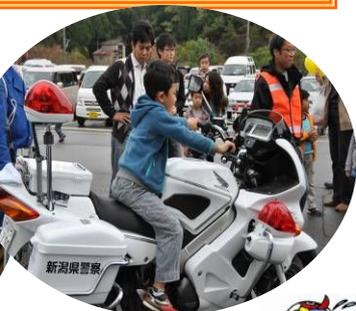


11月2日（水）、3日（木・祝）の2日間にわたり開催した、文化・芸術の祭典『生涯学習フェスティバル』の様をお伝えします。

2日・3日の両日開催した【作品展示】は、町内の各種団体・個人が出展した工芸品や絵画など様々な作品が展示会場を埋め尽くし、訪れた方々はレベルの高い作品に見入っていました。

3日に開催した【ステージ発表】では、19ステージの発表がありました。歌や踊りなど日頃の練習の成果を存分に発揮した素晴らしい内容に、会場は拍手の嵐に包まれました！

この他にも、健康に関する各種体験・相談コーナーに多くの方が訪れた【健康づくりフェスティバル】、婦人会と小学校児童による【町民茶席】、【交通安全フェスティバル】や【町民ウォーキング】など昨年を上回るボリュームで開催され、「文化・芸術の秋」を満喫した2日間となりました。



今月の折込チラシ

今月号の公民館だよりには、以下のチラシが折り込んであります。こちらもぜひご覧ください。

・『ガーデニング教室（第7回）参加者募集』

・『第6回新潟県まちなみネットワーク出雲崎大会』



藝大生の街並スケッチ画でみる 昭和62年～平成23年を一挙展覧

10月8日（土）から10日（月・祝）の3日間、町民体育館と海岸地区妻入りの町屋等の計11会場において、「第7回妻入り街並ギャラリー&街並スケッチ画展覧会 in 町民体育館」を開催しました。

今回は、毎年一部のみを展示している東京藝術大学の大学院生及び大学生による「街並スケッチ画」全346点を全て展示しました。作品の中には今では見ることができない箇所もありますが、訪れた方がそのスケッチ画を通して当時を思い描く姿が印象的でした。



講師に JAXA・細田聡史氏 ～未来の夢こども体験講演会～

10月26日（水）に、今年で第5回目となる「未来の夢こども体験講演会」が出雲崎小学校・中学校で開催しました。

講師に JAXA（宇宙航空研究開発機構）で小惑星探査機「はやぶさ」の開発に携わった細田聡史氏を迎え、午前は小学生、午後は中学生を対象に、「はやぶさ」や宇宙の不思議についての講演が行われました。

児童・生徒たちは宇宙の事に一層興味を持ったようで、質疑応答では「どうすれば JAXA で宇宙の研究ができますか?」、「地球以外の惑星に生物はいますか?」など多くの質問をしていました。



▲小惑星イトカワの模型に興味津々

お知らせ



お申込みは中央公民館（Tel 78-2250）まで

出雲崎総合大学のご案内

☆ 総合大学生以外も参加できます ☆

○文化コース「地元の食材料理」～コンニャくを作ろう!

【日時】11月22日（火）13:30～

【場所】中央公民館調理室

【講師】農村地域生活アドバイザー

○理科コース「健康教室2」体の健康～運動編～

【日時】12月2日（金）13:30～

【場所】中央公民館講堂

【講師】安野加代子 様

図書館だより（新刊案内）



中央公民館

- ヴァチカン物語
・・・塩野 七生 著
- 野球にときめいて
・・・王 貞治 著
- 福島原発の真実
・・・佐藤 栄佐久 著

町立図書館（海岸公民館）

- スティーブ・ジョブズ脅威のイノベーション
・・・カーマイン・ガロ 著
- 龍馬奔る
・・・山本 一力 著
- 東日本大震災 心をつなぐニュース
・・・池上 彰 著



世界最短の詩「俳句」

公民館長 佐藤 亨

近代文芸の一つ、世界最短の詩「俳句」は広く世界で親しまれている。四国・松山市は「俳句」のメッカとも言われ、

正岡子規

《柿食へば 鐘が鳴るなり 法隆寺》

河東碧梧桐（かわひがしへきごとう）

《今朝の秋 千里の馬を 相しけり》

高浜虚子

《遠山に 日の当たりたる 枯野かな》

をはじめ著名な俳人が多く生まれている。

その松山市では、活躍した俳人たちの出身地にあやかっつて、毎年夏「全国高校俳句選手権大会」（略称 俳句甲子園・5人一組の団体戦）が開催されている。地方大会の予選を経た高校生は句の出来栄だけでなく、句の観賞力も競うから大抵ではない。高校生ながら互いに力量のある論戦が展開され、感嘆させられる。

今年の大会では3位に終わったが、地元・松山東高等学校は過去に優勝、準優勝の経験豊富な強豪校であり俳句作りが盛んである。子規や碧梧桐、虚子はこの学校（現松山東高校）で学び、また夏目漱石もこの学校で勤務した。松山東高校の俳句活動の精神は『俳句は自分の分身』であるという。「分身」とす

れば、自分の魂が具わるということであるから、俳句に打ち込む精神は大変なことで容易に想像がつく。

これと重なるような話を先般当町で開催された「奥の細道俳句大会」で聞くことが出来た。今回の天の河俳句大会講師の黒田杏子（くるだももこ）氏は俳句甲子園の審査員も務められたり、俳壇で最高の賞となる「蛇笏（だこつ）賞」（俳人・飯田蛇笏の遺徳を敬慕した賞）を今年度受賞された。講演の中で、氏は、『俳人は、俳句に命の限りを尽くす』と述べられた。「命がけ」は、まさに、精魂込め、骨を削るような非常な苦心をして作り上げる様を表す。執念でもある。こうした精神のもとに優れた作品が完成していく。町内でも俳句愛好者が多いが、俳句が奥の深い文芸の一つであることを再認識した。

黒田杏子

《ふたりして ひとつ年とる 切炬燵》

「文化の日」を中心に、当町でも日頃から丹精を重ねられた町民の作品や芸能の発表が開催された。いずれも情熱あふれる見事な力作、技量を観ることが出来た。上記に述べた、取り組む人の「心・精神」である。

今月の一句



〈西乃越句会〉

爽かに舞ふ棟梁の鉦屑

川西 仲野隆之

刈り残る稲に勝ち鬨の群

川西 生田恒憲

〈越後出雲崎 渚会〉

秋鯖のずしりと縞の青さかな

井鼻 細木 郵子

箸遣ひ視られておりぬ菊膽

乙茂 金泉 今日子



〈出雲崎小学校児童の俳句〉

かたつむり葉っぱの上でおさんば中

4年生 寺尾 梓

金魚ばち目高が泳ぐおうちだね

4年生 星 奈槻

できたてのやきそばたべてお祭りだ

5年生 加瀬 拓摩

お祭りで帰りにほたる飛んでいた

5年生 内山 美佳

グラウンド大声ひびく運動会

6年生 小林 幸平

ファンファーレきれいな音色運動会

6年生 加藤 美波



柳津町 VS 出雲崎町 ～親善卓球大会～



10月15日(土)に柳津町・出雲崎町姉妹都市交流事業第2回親善卓球大会を開催しました。本来であれば今年はお出雲崎町で開催予定でしたが、東日本大震災や7月の新潟・福島豪雨による被害からの1日も早い復興を目指す柳津町を出雲崎卓球クラブが激励に訪れました。

試合は5vs5のシングルスと1組の男女混合ダブルスを行い、勝敗は両町譲らず最後までもつれましたが、6-5で柳津町の勝利となりました。試合後は笑顔で握手を交わし、両町の友好が一層深まりました。

また、あいにくの天候のため中止となった親善野球大会は、11月13日(日)に出雲崎町民野球場にて開催いたしますので、ぜひ応援にお越しください。

第5回町民ウォーキング



町体→下小竹→井鼻→石井町→米田→町体

11月3日(木)、「第5回町民ウォーキング」を開催しました。参加者38名+犬1匹が、秋の出雲崎6.0kmコースを歩きました。

第30回町内ゲートボール大会



平成23年10月5日(水)

場所：屋内ゲートボール場

優勝：いきな 準優勝：三楽 第三位：五ヶ字
小木ノ城B

秋のスポーツ教室はじまりました。



バレーボール教室



トレーニング教室

11月の指導員日程 ～トレーニングルーム～

7日(月) 19:00～

21日(月) 19:00～

お気軽にお声かけください。

